

第十二課

神を信じなさい

信仰の祈りの秘訣

「イエスは答えて言われた。『神を信じなさい。まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海にはいれ。』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。』」
(マルコ一・二二―二四)

祈りの答の約束は、前回の学びでしたが、それは、聖書の中でも最もすばらしいものの一つです。私はどうしたら、求めたものはすべて与えられることを知る信仰を自分のものにする事ができるでしょうか。心の中でそのように問いかけた者がどれだけいたでしょうか。

主は、きょうその間に答えてくださいます。主は、弟子たちにすばらしい約束をお与えになる前に、もう一つのことを語られています。その中で、祈りの答を信じる信仰がどこから起り、

力を得ることができかを指摘されました。「神を信じなさい。」このことばは、祈りの答の約束を信じなさいということばに先立つものです。約束を信じる信仰は、約束してくださった方を全く信じる信仰のみにかかっています。人への信頼は、その人のことばへの信頼を生みます。私たちが個人的に神とともに生き、愛の交わりをする場所、神御自身が私たちにとってすべてである場所、自分の全存在が聞かれて、神の聖い臨在が絶えず明らかにされる場所は、求めるものは何でも与えられると信じる能力が育つ場所です。

信仰とは本当に何なのかと考える時に、神を信じる信仰と、神の約束を信じる信仰の関係が明らかになります。この信仰は、私たちに提供されたものを受け、また評価する手や口と比較されず。しかし、信仰とは、約束されたことを聞く耳、差し出されたものを見る目でもあることを理解することも重要です。取るべき力はこれにかかっています。約束を与えてくださった方の声を聞かなければなりません。その方の声の調子が、私に信じる勇気を与えてくれます。私はその方を見なければなりません。あらゆる恐れは、その方の目と顔の光の中で消え去ります。約束の価値は、約束した方にかかっています。約束を信じる信仰は、約束した方についての知識にかかっているのです。

だからこそ、イエスは、すばらしい祈りの約束をお与えになる前に、まず、「神を信じなさい」と言われたのです。それは、あなたの目が生ける神に対してよく見聞き、見えないお方をしか

と言われたのです。それは、あなたの目が生ける神に対してよく見開き、見えないお方をしっか

り見つめることです。私は目を通して、自分の前にあるものの影響を受けます。私は、その影響が自分に及び、作用し、心にその印象を残すのを許すだけでよいのです。同じように、神を信じるということは、神がどのようなお方であるかをよく見ることであり、御自身の御臨在を啓示していただき、時間を用いて、あふれる神の愛を喜び受け入れることです。開かれたたましいが、神の印象の完全なとりこになることです。確かに信仰は目です。神は、御自身がどのようなお方であり、どのようなことをなさるかを、その目に向かって示されます。信仰によって、神の臨在の光と大能の力の働きがたましいに流れ込みます。目に見えるものは自分のうちに生きています。同じように、神もまた、信仰によって私のうちに生きておられます。

更にまた、信仰は耳でもあります。その耳によって神の御声は常に聞かれ、神との交わりが保たれます。御父は、聖霊によって私たちにお語りになります。御子はことばであり、神が私たちに語りになろうとすることの本質です。御霊は生きた声です。神の子はこの御声に導かれ、指導されなければなりません。天からの隠れた御声は、イエスに言うべきこと、なすべきことを教えたように、神の子たちに教えなければならぬのです。神に向かって開かれた耳とは、神を待ち望む信仰の心です。神がお語りになることを聞こうとする耳は、神がお語りになることを聞くことができます。神のみことばは、単なる書物ではありません。それは、神の口から出る霊、真理、いのち、力です。それは、実際に生きた経験をもたらします。そうでなければ、それは単

なる思想に終つてしまふでしょう。この開かれた耳によつて、たましいは、神御自身のいのちと力の影響下にとどまり続けることができます。私が聞くことばは、心の中に入り、そこにとどまり、そこで働きます。同じように、信仰によつて、神は心に入り、そこに住み、そこで働きます。

信仰が、目や耳、すなわち、神を見、神に聞くたましいの機能として完全に働くようになる、信仰はまた、手や口としても完全に働き、神と神の祝福を自分のものにします。それを受け入れる力は、全く、霊的な知覚能力にかかっています。だからこそ、信仰の祈りに神が答えてくださるという約束を与える前に、イエスは、「神を信じなさい」と言われたのです。信仰とは、簡単に言えば、降服です。自分が耳にした知らせがもたらす印象をそのまま受け入れることです。信仰によつて、私は生ける神に降服します。神の栄光と愛が心を満たし、生活を支配します。信仰は交わりです。自分と約束を結んでくれる友人の影響に自分自身をゆだねます。その約束が、私とその友人を結びつけるものです。私たちは、いつも神を見、神に聞く信仰によつて、神御自身との生ける交わりを始めます。その時に、なんなく、しかも自然に、祈りに関する神の約束を信じるようになります。約束を信じる信仰は、約束をしてくださった方を信じる信仰の実です。信仰の祈りは、信仰の生活に根を下ろしています。このように考えると、効果的に祈る信仰は、実に神の賜物です。それは、神が一瞬のうちに私たちに授けてくださった、注いでくださるも

実に神の賜物です。それは、神が一瞬のうちに私たちに授けてくださったり、注いでくださるも

のではありません。もっと深い意味において、また真実の意味において、神との交わりの中で私たちのうちに働き、また成長する、神から与えられた性質、ないし、たましいの習慣とでも言うべき神の賜物です。確かに、御父をよく知り、御父との絶えざる、親しい交わりに生きる者にとっては、御父が御自分と一つになって生きる子の求めをかなえてくださる、という約束を信じることは、何でもありません。

多くの神の子たちは、信仰の生活と信仰の祈りとのこの関係を理解していません。したがって、彼らが力強い祈りを経験するには無理があるのです。神から答をいただこうとすると、約束のみことばに全心を傾け、何とかして信仰によって約束をつかもうとします。ところが、うまくいかないとあっさりあきらめてしまうのです。約束が真実であるのに、信仰によってそれをつかむには力が足りないのです。きょうイエスが教えてくださる教訓に耳を傾けてみましょう。「神、生ける神を信じなさい。」約束されたもの、よりも、まず信仰によって神を見上げましょう。信仰を目覚めさせ、働かせてくれるのは、神の愛であり、力であり、臨在であります。手や腕に、つかむ力、握る力がほしいと願っている者に対して、医師は、その体質全部が鍛え上げられ、強められなければならないと言うでしょう。同じように、弱い信仰をいやすには、神との交わりによって、私たちの霊的生活全体を活気づけることが必要なのです。神を信じることを学び、神をつかむことを学び、自分の生活を神に支配していただくことを学びなさい。そうすれば、約束をつ

かむことは何でもなくあります。神を知り、神に信頼する者には、約束を信じることは何でもないことが分ります。

このことは、昔の聖徒の場合、非常にはつきりしています。そのことに注目してください。信仰の力の特別の現れは、きまつて神の特別啓示の結果でした。アブラハムの場合を見てみましょう。「主のことはが……アブラムに臨み、こう仰せられた。『アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きい。』……彼は主を信じた。」後にまた、「主はアブラムに現われ、こう仰せられた。『わたしは全能の神である。』アブラムは、ひれ伏した。

神は彼に告げて仰せられた。『わたしは、この、わたしの契約をあなたと結ぶ』。それは神御自身の啓示であり、心の中に入つて信仰を働かせる生きた力をその約束に与えるものです。こうした信仰の人は神を知っていたので、ひたすら神の約束を信じました。神の約束は、私たちに就いて神御自身がどのような方であるかを示すものです。神の約束を本当にいただける者は、神の御前を歩み、ひれ伏して、生ける神が語られることばに耳を傾ける者です。聖書に神の約束があり、私たちにそれを自分のものにする自由があつても、神御自身が私たちに語ってくださらないなら霊的な力に欠けます。神は、神とともに歩み、神とともに生きる者にお語りになります。だから、神を信じなさい。信仰が完全に目となり、耳となるように求めなさい。自分のたましいに神が御自身を完全に啓示してくださるように求めなさい。神は、みこころのままに私たちのうち

に力強く働き、信仰のみわざを成就してください。この生ける全能の神を実際に信じていくことが祈りのおもな祝福の一つであることに心をとめてください。神が愛のお方であること、祝福をお与えくださる方であること、御自身を与えられることをお喜びになる方であることを知ってください。そのように神を信じて礼拝すれば、すぐに約束を信じる力が与えられます。「祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。」信仰によって、神をあなた自身のものにするれば、約束もまた、あなたのもことになります。

イエスがきょう私たちに教えてくださる学課は、なんと貴重なものでしょう。私たちは神の賜物を見てきました。神はまず、御自身を私たちに与えたいと望まれます。私たちは、祈りが、天から良い賜物をもたらす力であると考えます。イエスは、私たちを神に近づける手段となってくださいました。私たちは、戸口に立ってこう叫びましょう。イエスが私たちをまず中に入れ、私たちを友とし、子としてくださいました。主の教えを受け入れましょう。私たちは、祈りにおける信仰の弱さを経験するたびに、生ける神にもっと強い信仰を抱き、その信仰によって神に自らをささげるよう励まされたいものです。神に満たされた心には、信仰の祈りをささげる力があります。神を信じる信仰は、約束を信じる信仰を生み出します。その約束から、祈りの答も生れてくるのです。

ですから、神の子よ。時間を取りなさい。神の御前にひれ伏し、御自身を現してくださいるまで

待つ時間を取りなさい。そして、聖い恐れと礼拝の中で、無限のお方に対する信仰を表し、それを実行しなさい。神が御自身を与え、あなたを御自身のものとされる時、信仰の祈りは、神に対するあなたの信仰に冠をいだかせることでしよう。

ああ、私の神よ。私はあなたを信じます。私は、あなたを御父とし、無限の愛と力に富むお方と信じます。また、御子とし、私の贖い主とし、私のいのちとして信じます。そして、聖霊とし、慰め主とし、導き手とし、力として信じます。三位一体の神よ。私はあなたを信じます。あなたは、あなたのすべてをもつて私に臨んでくださいます。私は、約束されたことを成就してくださることを知り、確認しております。

主イエスよ。この信仰を増してください。時間を取ることを教えてください。神が備えてくださったものを信仰によって自分のものとするまで、御前で待ち望み、礼拝することを教えてください。世界と私自身のうちにみこころを成就するために力強く働くいのちの泉として、私に神を見させてください。私の願いを満たし、成就してくださる愛の方として見させてください。私の心と生活を完全に支配し、信仰によって、神だけが住んでくださいますように。主イエスよ。私を助けてください。私は、心から神を信じます。神を信じる信仰が絶えず私を満たしてください。

を助けてください。私は、心から神を信じます。神を信じる信仰が絶えず私を満たしてください。

ますように。

ああ、恵み深い主よ。私たちの全生活が神を信じるものとなっていないならば、どうして、教会があなたに栄光を帰し、とりなしの祈りによって御国の到来を求めることができるでしょう。恵み深い主よ。私の心の奥底に、「神を信じなさい」というあなたのみことばを語ってください。アーメン。